

西中の風

継続と徹底

伊丹市立西中学校長

大西 規之

コロナ禍でもできること（Ⅱ）

第28号からの続き

⑧思考力、表現力を評価するため、定期考査や実力テストに記述式の問題を1問は出題する。

⑨学習の目標、授業の進め方・ポイント、家庭学習のやり方、ノートの作り方、評価する内容、評価の元になるものなどをまとめた「シラバス」並びに年間指導計画を作成する。これらを活用して、評価の仕方を説明するなど授業に先立って指導を行うことにより、学習意欲の向上を図る。また、令和3年度から完全実施される新学習指導要領に向けて、学習評価の在り方について検討を行う。

⑩全国学力調査・全国学習状況調査や伊丹市学習到達度調査及び本校独自の学習到達度調査の分析結果を授業改善や日常の教科指導に活かす。

⑪「学習優先の日」及び「土曜学習」、放課後等の補習を有効的に行う。

⑫市教育委員会の指導主事の参加のもと、月に1回定例の教科部会を開催し、ベテラン、中堅教員から若手教員へ授業に関するノウハウを伝授する。

⑬指導案の作成から教科内で検討を重ねて一人一授業公開を行い、指導助言を行うなど、互いに切磋琢磨する校内研究を進める。

⑭市教育委員会の指導主事などに授業を見てもらい、指導助言を受けるなど、若手教員の授業力の向上を図る。

⑮教員同士が互いに授業を見合う習慣づけを行う。

⑯「学習の手引き」（シラバスに組み込む）を活用したり、月1回随時「学力向上委員会」を開催したりして、家庭学習のあり方や学力向上に向けた取り組みについて検討する。

⑰1人1台タブレット導入に向けて、積極的なICT機器の活用を図る。

（2）表現力の育成のため全領域でことばの力育成について推進するとともに、理数教育の充実に努める。

①全ての教科指導においてグループ活動を取り入れ、生徒自らが考えを出し、思考を高め合い発言する学習能力を培う。

②各学級において「1分間スピーチ」を行い、自らの考えや思いを表現する力を培う。また、学年では各クラス代表者による「スピーチ大会」を開催する。

③「図書館まつり」を開催したり、昼休みに「出前図書館」を実施するなどして、学校図書館の効果的な活用を促し、読書量の増加に努める。また、読書量の多いクラスを学期に1回、多い生徒を年に1回表彰したり、朝読書の時間にボランティアによる読み聞かせを行うなどして、読書に対する意欲や興味を高める。

④理科、数学科において個に応じたきめ細やかなティームティーチングや少人数指導を行い、理数教育の充実に努める。

⑤全学年において「コグトレ」※に取り組み、生徒一人ひとりの発達面の苦手さを軽減させる。

※「コグトレ」とは、Cognitive O O training＝認知O Oトレーニングの略称で、子どもたちが学校や社会で困らないために、社会面（認知ソーシャルトレーニング）、学習面（認知機能強化トレーニング）、身体面（認知作業トレーニング）（O Oには下線の言葉が入る）という3方面から子どもを支援する包括的プログラム。宮口幸治（立命館大学教授・児童神経科医・医学博士）が考案。

（6）「きょうだい学級」や特別活動の活性化を図る。

上級生が下級生の模範となる「きょうだい学級」を活性化させ、体育大会、文化祭や合唱コンクール、儀式的行事などを自尊感情やあこがれを実感する機会とする。

昨年6月の分散登校から始まり、7月、8月、11月、1月と日を重ねるにつれ、アンダーラインが増えました。つまり、感染対策をしっかりと行いながらできることが増えました。行事等が例年どおり行えないなどまだまだ制約はありますが、少しずつ平常の教育活動に戻していきたいと思っております。今後ともご協力の程よろしく願いいたします。

ホームページを
日々更新中！！

